

## 第3回次期あいちビジョン有識者懇談会議事録

日時 2020年9月16日(水)  
午前10時から午前11時30分まで  
場所 本庁6階 正庁

### あいさつ

#### <知事>

皆様おはようございます。愛知県知事の大村です。

本日は座長の奥野先生をはじめ、委員の先生方にはお忙しいにもかかわらず、ご参加、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。第3回の次期あいちビジョン有識者懇談会を開催させていただきます。

このあいちビジョンは、皆様のご協力のもと、昨年度から検討を進めてまいりました。そうしたところ、新型コロナウイルス感染症が年明けから世界中で蔓延をし、そして1月には日本にもやってきたということがございます。日本全体、世界中の市民の生活や経済活動に大変大きな影響を及ぼしており、一日も早い収束に向けての取組が必要となっているところでございます。

こうした感染症が及ぼす中長期にわたる影響も含めて、今回のあいちビジョンは2040年頃の社会経済の展望や、めざすべき愛知の姿、その実現に向けた2030年度までに取り組むべき重要政策の方向性などについて、県内市町村、国の機関、各種団体など各方面からご意見を伺いつつ、委員の先生方から様々なご意見をいただき、方向性を探ってきたということがございます。そして今回、次期あいちビジョンの全体を素案という形で取りまとめて、本日の懇談会でお示ししてご説明させていただくことにしております。よろしくお願い申し上げます。

また、2040年頃の社会経済を展望いたしますと、感染症・災害などのリスクに対する意識が世界的に高まる中で、我が国全体の人口減少も進み、人生100年時代ともいえるべき長寿社会の到来も予測されます。また、第4次産業革命の進展に伴い、産業構造のみならず働き方も大きく変わると考えます。さらに、リニア中央新幹線の開業、また愛知は、三大都市圏を含むスーパー・メガリージョンの中心に位置することになります。

こうした将来展望のもとに、2040年頃を見据えた愛知の姿を4つにまとめました。まずは、感染症、地震、風水害などのリスクに負けない「危機に強い愛知」。そして2つ目は、「すべての人が輝き、活躍できる愛知」。3つ目は、「イノベーションを創出する愛知」。4つ目は、「世界から選ばれる魅力的な愛知」ということがございます。

これらをめざすべき愛知の姿として位置付けまして、県としては、2040年を見据え、2030年の目標年度に向けて、ビジョンをしっかりと推進していきたいと思っております。その際、ジブリパーク、アジア大会、リニア中央新幹線などの様々なプロジェクトを活かして、イノベーションを生み出す好循環を作っていきたいと思っております。そして将来にわたって日本の成長をリードできる、そういう愛知をつくっていきたいということがございます。

また、ビジョンと目標年度を同じくするSDGsの達成に向けても、暮らし・経済・環境と

いったその理念を踏まえて、持続可能な社会を実現していきたいと思ひます。

いづれにいたしましても、こうした中で、新型コロナウイルス感染症の克服に向けて全力で取り組んでいくということも大前提となっております。

こうした思ひを込めて、次期あいちビジョンでは、2030年度に向けた基本目標を「暮らし・経済・環境の調和した輝くあいち～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～」としたいと考えております。この目標の実現に向けて、愛知が一丸となって、地域づくりに取り組んでいきたいと考えております。

そして今後は、10月にパブリックコメントを実施した上で、11月の策定につなげてまいりたいと考えております。

それでは、本日は最後の懇談会となりますが、先生方には、忌憚のないご意見をいただくことをお願いいたしまして、私から冒頭のあいさつとさせていただきます。本日は何卒よろしくお祈りいたします。ありがとうございました。

## 事務局説明

### <事務局>

企画課担当課長の浅田でございます。次期あいちビジョンの素案につきまして、資料1によりましてご説明を申し上げます。

資料1の1ページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症が、今後の地域づくりに及ぼす影響を踏まえた骨子案を7月27日に発表いたしました。その後、分科会や各種団体のご意見などを伺いながら、肉付けを行ひまして、とりまとめたものが今回の素案でございます。

「Ⅰ」の社会経済の展望には、昇委員や内田委員、クマール委員等から今後も起こりうる感染症リスクへの対応に関するご意見を踏まえまして、最初に「①感染症・災害・犯罪リスクの増大」を記載しております。また、各委員からの御意見を踏まえまして、「③暮らし・労働・学びの多様化」では、「ICT化の加速による場所・時間概念の変容」、「⑤世界経済の多極化、経済重心のアジアへのシフト」では、「サプライチェーンの多元化」、「⑧スーパー・メガリージョンの形成」では、「過密化リスクへの意識の高まり」などを記載しております。また、⑧では、奥野座長からいただきました、「ICT化が進んでも、フェイス・トゥ・フェイスの重要性は変わらない」といったご意見を踏まえた内容を本文に盛り込んでおります。

資料の右側をご覧ください。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「Ⅱ」の2040年頃の「めざすべき愛知の姿」の一番目に「①危機に強い愛知」を位置づけております。また、「④世界から選ばれる魅力的な愛知」では、森川委員や内田委員の御意見も踏まえまして、過密化リスクへの意識が高まる中、スーパー・メガリージョンのセンターとして、首都圏の持つ社会経済的な機能を代替しうる大都市圏の形成をめざしていくことを示しております。

「Ⅲ」の「2030年度に向けた基本目標」につきましては、先ほどの知事の挨拶の中にもありましたとおり、SDGsの理念を踏まえまして、「暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～」といたしました。また、基本目標の達成に向けた進捗を評価するため、「暮らし」、「経済」、「環境」それぞれに、総合的な指標を設け、今後、数値目標を設定したいと考えております。

続きまして、「Ⅳ」の「地域づくりの推進に当たっての横断的な視点」でございます。「・」の三つ目は、奥野座長からの「SDGsは、横串を刺すことが必要である」といったご意見を踏まえ、横断的な視点の中で「SDGsの達成への貢献」を位置付けております。また、後藤委員からいただきました「地域コミュニティ」の重要性についての御意見を踏まえた内容を、その下の「多様な主体との連携・協働」の中で記載をしております。

次に、2ページをご覧ください。「Ⅴ」の2030年度までに取り組むべき「重要政策の方向性」につきまして、新型コロナウイルス感染症への対応を意識して、一番目に「①危機に強い安全・安心な地域づくり」を位置付けるなど構成を見直しております。また、重要政策ごとの進捗管理の参考とするため、次期ビジョンでは、初めて、分野ごとに4から6項目の指標を設けておりまして、ここでは、そのうち大事な指標をそれぞれ2つ挙げております。なお、世界と比較できる指標につきましても検討いたしました。が、なかなか地域あるいは都市圏単位のデータとして比較可能なものが見つからない状況でありまして、今後、ビジョンの進行管理をするために作成する年次レポートの中で、どういった分析が可能か研究してまいりたいと考えております。

それでは、重要政策の方向性につきまして、これまでに頂いたご意見を踏まえた肉付けの状況を中心に簡単にご説明いたします。左上をご覧ください。1つ目は「危機に強い安全・安心な地域づくり」です。新型コロナウイルスなど感染症対策を始め、自然災害に対する防災・減災対策、交通安全対策や水資源の安定確保など、安全・安心な地域づくりを進めるために必要となる主な政策の方向性を示しております。

後藤委員から、感染症に対する近隣県との連携についてご意見を頂きましたので、「新型コロナウイルス感染症の克服」や「新たな大規模感染症リスク等への対応」の中に盛り込んでおります。

続きまして2つ目は、「次代を創る人づくり」でございます。子どもたちが次の社会を創造する力や異文化・多様性への理解などを深めていけるよう、次代を創る人づくりを進めるために必要となる主な政策の方向性を示しております。

クマラ委員の「外国人との交流や英語運用能力の向上」に対するご意見につきましては「グローバル人材の育成」の中で反映いたしております。また、昇委員から「教育環境の充実」に関するご意見を頂きましたので、「魅力ある学校づくり」の中に盛り込んでおります。

続きまして3つ目は、「すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり」でございます。平均寿命が延伸する一方、少子高齢化による労働力不足の深刻化が見込まれる中、生涯にわたって活躍できる社会づくりを進めていくために必要となる主な政策の方向性を示しております。

森川委員から頂きました「高齢者による社会貢献型の働き方が必要」といったご意見につきましては、「高齢者の社会参加の促進」の中に盛り込んでおります。

次は、「安心と支え合いの社会づくり」でございます。地域コミュニティを支えてきた仕組みが弱まることが想定される中、格差の拡大や少子化の進行、高齢者の社会的孤立などといった課題の対応に必要となる主な政策の方向性を示しております。

奥野座長や後藤委員から頂きました「ひとり親世帯への支援の強化」に関するご意見につきましては「困難を抱える女性・子ども・若者などへの支援」の中に反映いたしております。

5つ目は、「豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり」でございます。人生を豊かに

過ぎつつ、職場・家庭・地域などで複数の役割を担える社会を実現していくために必要となる主な政策の方向性を示しております。

後藤委員から頂戴いたしました、「地域密着型で働ける場を作ることが必要」といったご意見につきましては、「多様で柔軟な働き方の促進」の中に反映いたしております。

6つ目は、「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」でございます。今後、第4次産業革命の進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれる中、あらゆる産業におきまして、新技術をいち早く取り込み、イノベーションを創出していくために必要となる主な政策の方向性を示しております。内田委員から、「農業と製造業との連携」や「スマート農業でのイノベーションの創出が必要」といったご意見を頂きましたので、「スマート農林水産業等による生産力の強化」の中に反映いたしております。

7つ目は、「世界とつながるグローバルネットワークづくり」でございます。アジアを始め世界から、企業や人材、資本、情報呼び込み、新たな投資や取引機会を拡大していくために必要となる主な政策の方向性を示しております。

内田委員から、「アジア大会を契機に留学生もビジネスもアジアをターゲットにしていくことを検討することが必要」といったご意見を頂きましたので、「アジア競技大会を活用した戦略的なネットワークづくり」や「グローバル市場の更なる獲得と海外からの投資促進」の中にこうしたご意見を反映いたしております。

8つ目は、「スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり」でございます。リニア中央新幹線の全線開業に伴い形成が期待されるスーパー・メガリージョンのセンターを担いうる大都市圏づくりを進めていくために必要となる主な政策の方向性を示しております。

奥野座長や森川委員から「北陸・中京新幹線」に関するご意見を頂戴しましたので「交流圏の拡大に向けた戦略的広域連携」の中に反映いたしております。

9つ目は、「選ばれる魅力的な地域づくり」でございます。ジブリパークやアジア競技大会などのプロジェクトを最大限に活用して、旅行者から選ばれる魅力的な地域づくりを進めるとともに、居住地としての魅力も高めていくために必要となる主な政策の方向性を示しております。

昇委員から頂きました「テレワークにより、住む選択の基準が仕事中心から生活重視に変わっていく」といったご意見や、クマラ委員から頂きました「過ごしやすく、住みやすい地域ということをどうやって発信していくかが課題」といったご意見については、「居住地として選ばれる魅力の創造・発信」の中に反映いたしております。

10番目は、「持続可能な地域づくり」でございます。地球温暖化対策、人と自然との共生、資源循環型社会づくりなど、「持続可能な地域づくり」に必要な主な政策の方向性を示しております。

森川委員の「社会貢献をする企業を優遇したり、褒め称えることが必要である」といったご意見につきましては「脱炭素社会を見据えた地球温暖化対策の推進」の中に反映いたしております。

続きまして、一番下の「VI」の「地域別の方向性」についてでございます。尾張地域、西三河地域、東三河地域の3地域に分けまして、広域的な視点や、県内外の地域間連携などの視点も踏まえつつ、「尾張」では、「多様な産業・人材の活発な交流を活かし、スーパー・メガリージョン

のセンターを担う大都市圏の中核となる地域」とするなど3地域の将来像を示しております。

素案のポイントにつきましての説明は以上でございます。このほか、資料2では、素案の概要を、資料3では、素案の全文を添付いたしておりますので、適宜、ご参照いただければと思います。

本日、この後には、素案の内容や、また、今後政策の実施にあたり重視すべき点について、御意見を頂戴できればと存じます。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

## 議題 次期あいちビジョン素案について

### <後藤委員>

はい。ありがとうございました。

まず、この懇談会での委員の意見や、また私が関わりました県民生活分科会での様々な委員の意見を丁寧に取り上げていただきまして、今日このようなどとも充実した資料を作成いただきました事務局の皆様にもまず感謝申し上げます。

その上で、これから留意していかなければいけないなと思った点をいくつか述べます。「共助社会の必要性の増大」への対応ですが、前のビジョンからずっとやってきていることを、さらに形を変えて強化していくことと、また新たにこのビジョンで取り組んでいかなければいけないことという、両方があるかと思ひます。

共助社会の必要性の増大ということで、自助・共助・公助の大切さとか繋がり大切さということが、国の方でも言われております。愛知県の場合、この共助社会、自助・共助・公助のバランスというようなことは、確かもう90年代の後半に、市町村合併を進めていく際に議論しました。また社会保障や社会福祉の方でも、これからは公助のみではなく、自助・共助・公助のバランスで、社会保障や社会福祉をやっていくということで、前のビジョンの期間も含め、この20年ぐらい言われてきたことだと思ひます。

ただ、実際の社会は、それとは違う方向に動き、共助社会が進んだという実感がなかなか得られないでいました。けれど、今後の県民生活を展望することで、共助のところを充実していかなければいけないということに、気づいている人たちが増えてきたのではないかと思ひます。

この共助社会の一つは、様々なことの担い手を、もう少し共助のところで作っていく、そういう人材を育てていかなければいけないということでもあります。また、それだけではありません。今回のコロナ禍において、コロナに感染したら、地域の人たちから、どうしてもいろいろ差別や、心無い言葉をかけられるということがみられたりしました。それは通常の人々の繋がりというのが、やはり薄れていて、地域のお互いの暮らしに共感する力が弱まっているということの反映だと思ひます。共助社会の拡大は地域での暮らしの相互理解や共感を取り戻していくためにも必要なのです。

ここにも書いていただきましたように、ますます単身世帯が増えて、家族というところの自助の力というのが弱ってきております。そういう意味で、共助というものを、もう一度、再構築していかなければいけないと、これまでも言われていたことですが、今その必要性というのが、みんなに理解してもらええる良い時期ではないかなと思ひます。

それから、人生100年時代と言われて、やはり福祉や医療のケアを必要とする人たちが増えています。ケアを必要とする人の占める割合が増えてきておりますので、ケアの担い手というところでいきますと、公助だけでなかなかやっていくことが難しい中で、もう少し自助や共助のところで、できるところはやっていきたいと思いますということをしていかなければいけない。

ただ、90年代の終わりぐらいから言われてきた共助社会の拡大ということとはどちらかというと、自助でできることは自助で、次に共助で次に公助という意味だったと思うのですが、先程言いましたように、自助や共助のところが力が弱っていますので、誰かが役割を分配して、これは自助で、これは共助でというふうでは、なかなか再構築が難しいと思います。

そういう意味では、やはり公助が適切に自助や共助に関わることで、自助や共助の再構築に向かっていくと考えられます。伴走できる住民や、伴走できる行政の職員というのが非常に必要だと思います。何かをこうやってあげるというよりも、一緒に自助や、共助のところを、育てていくような、再構築していくことができるような、住民であったり、行政の職員であったりということが、非常に必要で、そういうのが今後の課題になっていくかなと。今みたいに、それぞれ自助のところでやって、共助のところでやってというのは、なかなか難しいと思います。この自助・共助・公助というのが、それぞれ分担ではなくて、分担と協働というような、そういう意識が必要と思っているところであります。

今回の基本目標は、暮らし・経済・環境の調和をめざすという、このところが重要だということでもあります。県民生活分科会のところで出た意見をいろいろ考えますと、これから働くことと暮らしが循環するような、そしてそれに、確か奥野座長が言っていた、豊かな時間とか楽しみというようなことを考えることで、新しい産業が生まれます。人々が、コロナで移動したいという気持ちが弱まっているのを、もう一度、そういう気持ちにさせていく。やはり豊かにかとか楽しいとかいうことがないと、人の新しい動きというのを生み出しませんので、そういう意味では、働き方と暮らしと楽しみみたいなものが循環していくような社会を作っていくことが、非常に重要だと思います。

ジェンダーということも、男女間の役割分担というのも、結構変わっていくのではないかな。今までは変わらなきゃいけないって言っていたのが自然に変わっていくのではないかな。県民生活分科会の先生が言っていたことです。オンラインになって、男性の仕事の方がオンラインに適応できるような仕事があって、新しくこの10年20年の間に拡大していった女性の労働領域というのは、家の外に行ってやらなければならないエッセンシャルワーカーのようなところで、女性は外に出ていかないと新しく拡大した仕事の領域を維持できないと。男性のホワイトカラーと言われていたような仕事が家の中でもできたりすると、そういう仕事の場が男性は家庭内、女性は家庭外となることで、家庭の中の役割も変わっていくのではないかなというような、指摘がありました。今後、新たな経済を生み出すためにも、働き方や暮らしのあり方の変化が求められ、男女の役割分担にも影響を与えてくるような中で、新しい暮らしを描いていくことも大事なかなと思っています。その点については、はっきりした結論には至らなかったのですが、ビジョンの中に書いていただくことは難しいとは思いますが、そのような議論もあったことをご紹介しておきたいと思っています。

そして、分野ごとに進捗管理指標を設定していただけるということで、我々が何を目指してい

くか、何をやらなければいけないということが、みんなに伝わるような指標というのが、いいのかなというふうに思います。その意味で、今回、それぞれの分野ごとに指標を設定いただくのは前進です。私の関わりました県民生活分野のところも拝見すると、いろいろな指標を出していただいています。ビジョンの重要政策が関わらなくても変化していくような指標よりも、むしろビジョンに含まれる政策や内容が動くことによって指標が影響を受けるような、そういう指標が良いと思います。ここに書いてあることと対応できるような、こういう指標によってビジョンの進捗を管理していくのだということが、分かるような指標を。そういうデータがあるかどうかということで難しい面もあるかと思いますが、できる限りそういう指標になるように、ご検討いただけるといいのかなと思います。

雑駁な意見で申し訳ありませんけど。よろしく願いいたします。

### <奥野座長>

はい。ありがとうございました。

共助社会については、普通の市民、民間が公共になるというのが、私は現代社会の特徴だと思っていて。政府、国土政策でも、あるいは国土強靱化でも非常に重視しているところです。

私的なことになりますが、私が今おります都市センターでも、理論的なバックアップだけではなくて、現場の支援ということにも乗り出していて、例えば、民間でおやりになる世界運河会議、これ私が皆さんに助けていただきながら実行委員長をやっているんですけど、来年5月、これは民間。それから市民団体の皆さんへの支援も、現場の理論とともに、丁寧にするように心がけています。

どうもありがとうございました。内田委員、お願いいたします。

### <内田委員>

中京大学の内田です。

最初に、次期あいちビジョンの素案の全体については、産業経済分科会の意見なども幅広く取り入れていただきまして、上手くまとめていただいている印象です。先ほど知事もおっしゃっていましたが、特に、めざすべき愛知の姿の4つの柱のうち、「危機に強い愛知」を前面に押し出している点は愛知の強みでもあり評価できるかと思います。

一方、2040年の経済展望を見据えた今回の2030年の目標に関しては、with コロナの期間と世界的な5G関連投資などの高速大容量通信時代がほぼ一致していることで、デジタルトランスフォーメーション（DX）が加速し、スマート社会化が加速する時期に当たります。

そうした中で、愛知の大都市圏としての機能と地方の良さも併せ持つバランス、つまり都心部と郊外の密集度のバランスが絶妙な点が強調されてくると思います。対コロナの側面でも、県民性であったり、ワークライフバランスであったり、道路ネットワークなどの県土基盤であったり、コロナの押さえ込みにも貢献した危機への強さがあると思います。そうした強みを次期あいちビジョンで前面に出していくことは重要だと思います。

また、with コロナは、ある意味、国や地域、企業、個人が様々な面から選別されていく時代でもあると思います。企業や消費者の価値観の変化を超えてパラダイムシフトが進んでいて、愛知

県も with コロナで選ばれる地域になる必要があります。逆に with コロナやDXに対応できない地域は地盤沈下し、自治体の二極化が加速すると思います。本県も強みと弱みを的確に把握しながら、強みを強化し弱みを補完していく政策を計画に盛り込んでいく必要があると思います。

例えば、「危機に強い愛知」には今回は入っていないようですが、愛知県は農業産出額も全国7位と上位に位置し、食料自給率の高さや近郊農業やスマート農業のウエイトの高さなどは、with コロナ時代にも地産地消・地消地産といった域内循環が生み出せる地域という点で、大都市圏の危機への強みの一つだと感じています。

それから、2つめの多様な人材が輝く地域も人材の最適配置に極めて重要な視点ですが、3つめのイノベーションを創出する愛知も、次世代製造業の競争力維持という点で不可欠です。特に、モノづくり産業がスマート社会化の中で付加価値を高めるためにはICTとの融合が不可欠となってくるため、現在は首都圏、特に東京に集中するICT部門をいかに県内の集積を高め、内製化していくかが重要になると思います。

また、イノベーション創出の鍵を握っているスタートアップを起業するような若者や女性、外国人材などを呼び込むためのステーションAIでの取り組みも挙げられているのは極めて重要な視点かと思います。

それから世界経済に関しては、with コロナ時代にはブロック経済化とは言わないまでも、これまでに比べるとある程度アジアなど特定の地域との交流や貿易のシェアが高まっていくとみえています。そうした意味でもアジア大会開催の重要性を盛り込んでいただいた点も評価したいと思います。

4つ目の世界から選ばれる魅力的な愛知ですが、スーパー・メガリージョンのセンターということで、ちょうど東京、大阪の中間にあるというロケーションが今回のコロナで浮上するチャンスになっていると思います。東京や大阪からさまざまな機能を分散させ、補完する地域として重要になってくるので、東西の大都市圏に匹敵する都心部の魅力づくりも進めていただきたいと思います。今週「Hisaya-odori Park」がオープンしますが、スマートシティへの取り組みも大都市から積極的に取り組んでいっていただきたいと思います。

次に、進捗管理指標、KPI指標についてですが、信頼性がありかつ継続性のあるような公的機関による指標を中心にピックアップしていただいています。かなり制約がある中での的確な指標を挙げることは難しかったと思います。現状あるデータですと、こういった統計になるかと思いますが、今後は新たなデータも含め、臨機応変にKPI指標の入れ替えも検討していただきたいと思います。

最後に、今後政府が新政権下でデジタル庁を設置する方針ということで、行政のデジタル化が進むと同時に、企業や家計のネットワーク化が加速することは間違いないと思います。本県では、中小企業を中心にIT化が遅れている面もありますし、企業のテレワークの導入や家計のIT化も首都圏より遅れています。地域のデジタル化に関しても、適宜必要なデータを採用するなり、場合によっては独自のデータを取るよう検討いただきたいと思います。以上です。

#### <森川委員>

はい。県土基盤分科会での議論を紹介しながら、意見を申し上げます。

県土基盤分科会では、実はこのコロナ禍が始まる前から、非常に強い意見として3人ぐらいの委員から大体共通して、やっぱりこの愛知の密でない、分散型で住めるという良さをもっとアピールしていこうと。

国交省が言っていたコンパクト・プラス・ネットワークという方向性ですけど、悪いというわけじゃないですけども、いわゆる狭義のコンパクトシティ化みたいなことはむしろやめて、分散型でうまく住んでいく、県土を作っていこうという意見が、コロナが始まる前から、複数の委員から出ていました。

その後このコロナ禍になって、まさにそういう意見が、当を得ているというようなことが、前回の分科会でもありました。

このような基本的な分科会の方向性を踏まえて、私なりに少し味つけをしますと、まずは、東京一極集中の国土的リスクというのがもうずっと言われていたんですけど、これでもういよいよ明らかになった。こういうパンデミック、それから地震、火山です。東京一極集中は国土的リスクが高過ぎる、それをどう回避していくかという、いきなりまた江戸時代のように全国に分散して住めというのは難しいので、やはり地域中枢都市的な、昔で言う五大都市とかですね、そういうところがもう少し力をつけていく。その中の1番手がやっぱりこの愛知・名古屋であろうと。特に今回、リニアができますので、東京に何かがあった時の、愛知の意義、存在意義はもっと大きくなるだろうと、そういう大きな国土的リスクを避けるための国土的な意味での分散化というのが、まずあるだろうと。

その次はこの愛知県内での住み方です。愛知県は3大都市圏の中では人口密度も低くて分散的に住んできたというところがありますので、これを大切にしていこうと。

分散的に住むと、この県には豊かな森、山、それから海辺がありますので、いろんなライフスタイルが楽しめるということになっていくだろうと。そして今回のテレワークブームがあって、ますますいろんなところに住みながら、都市的な仕事もできるというところで、やっぱりこの地域内での分散的な次世代の住み方というようなことを、もう少し今回のビジョンの中でも、もっと出していいんじゃないかと思います。

特にそういう意味では岐阜大の高木先生が言ったんですけど、密でない疎の価値というようなキーワードを出しましたが、まさにそういうところがこの愛知県だけじゃなくて、岐阜とかにもあるんだろうなと思います。

それから、ジブリパークです。東京ディズニーランドとかU S Jは魅力的ですけど、人工的に作りこんだアメリカ的価値ですが、ジブリパークは全く逆の日本の古来のあるべき田舎の姿を魅力的に見せているという、これが、愛・地球博のレガシーのあの場所にできる。そしてこの愛知県の特徴的な、少し田舎臭いけれども、日本の良さが残っているようなところで、開業するというのは非常にいいなと。ここに東京ディズニーランドみたいなものが来ても、あんまりふさわしくない。ジブリパークをこの地域づくりにもっと活かしていってらどうかというのが、前回の分科会でも出ましたが、そこがまだちょっとあんまり書かれていない。この中では、ジブリパークのプロモーションをしようみたいな書き方になっていて。分科会で言っていたのは、プロモーションも大事だけれども、ジブリ的思考方というか、もとを正せば愛・地球博の考え方を、地域づくりにもっと活かしていこうということだったかと思います。プロモーションだけじゃなく

て、愛知万博のレガシー、そして今度のジブリ的な発想。ジブリという言葉を使うのは知的財産権の問題で、非常に難しいというお話がありました。その考え方自体は、愛・地球博のレガシーだと思しますので、この間一貫したこの考え方を地域づくりに、活かしていこうと。

より具体的に言えば、これ杉山委員のご専門ですが、SDGsの中でもより環境的な面、特に山とか、里山とか海とか川とか、特に海は、閉鎖性水域の内湾が愛知県に二つもあるということもありますし、離島も都市の近くにある。非常に魅力的な環境がありますので、これをきちんと管理して、内湾の水質はもっと改善して、魅力的な里海と里山、そういうものを活かしていこうというような方向性が、もう少し強く出てもいいのかなと思いました。

それから、分科会以外のところで意見を申し上げます。重要政策の方向性の2番「次代を創る人づくり」、人材育成のところでは1番目に「創造性を伸ばす教育の推進」と、これも非常に表題としていいんですが、中身を見ると、私が分科会で申し上げたことは全く入ってなかったんですけども、確か申し上げたのは、クリティカルシンキングをもっと教育で取り入れてはどうかということなんです。

その時申し上げたのは、ある国際調査で、日本の小中高の教育の中でクリティカルシンキングを授業の中で取り入れているのはもう劇的に割合が低かった。欧米の国やアジアの国は、例えば70%、80%の値が出ている中、日本は10%とかですね、もう非常に低い。結局、日本の教育というのは周りと同調しながら、教科書に書いてあることは正しい、というような教育だったんですが、これではイノベーションとか、次のライフスタイルだとか社会を作っていく人材は多分生まれません。クリティカルシンキングって何か、批判的ということではなくて、先例とか、周りの空気とか、そういうことにとらわれず、論理的に物事を考えていきたいと思います、専門じゃないんですが、多分そういうことだと思います。

特に愛知県は、管理教育で悪名高いところですので、受験にはいいかもしれないんですが、やっぱりイノベーションを作っていく人材には、クリティカルシンキングというものを、小さい頃から、大人になっても持ち続けないと、イノベーションは生まれませんだろうなと思いました。

それからもう一つは、一部先ほどご紹介の中で私の名前を出していただいたんですけど、高齢社会に対して、やはり心の健康、身体の健康、それから医療福祉費の削減、すべてに利くのは、高齢になっても社会参加に尽きると思います。それは給料もらって働くということも、なるべくやったほうがいいですし、それだけじゃなくて、いろんな形で社会に貢献できている自分を実感するという、自己効力感といいますか。これが一番、心の健康、身体の健康にも良くて、それがひいては、行政的な良さとしては、いろんな社会的費用を削減できるというようなことになると思います。

愛知県は確か男女とも健康寿命が非常に高いところだと思いますので、その良さを活かして、より健康寿命を延ばすための、人生100年時代というお話がありましたので、そこの中での、高齢になっても何らかの形で社会参加をしていく道をどんどん作っていくという方向性がもう少し強く出てもいいのかなと思いました。以上です。

#### <奥野座長>

はい。ありがとうございました。

私も非常に共感いたしますが、最初の人口密度の件、今まで大体人口密度が高くなるってというのは、ポジティブにとらえられていたように思うんですね。コロナの問題で、そうではないという点が出てきたということは、私非常に大きなことだというふうに思っています。

それからこの地域が、密でなく住める街というのは、これは、なんていうか非常にいいフレーズだなというふうに思うんですが、今からいろんな行政の場で、容積率とか建ぺい率の議論なんかに、影響が出てくるんだらうというふうに思っていますし、期待もしているんですが。

ただ名古屋の場合には、先生がおっしゃるように、密と言っても、名古屋駅の鉛筆の先で突いた辺りの密というのはあるんだけど、県域全体が密というのは全くないので、そういう意味ではそのところは、もう少し集積してもいいんじゃないか、もっともっと集積してもいいのではないかと、そういう余裕があるということだと思います。

それからコンパクト・プラス・ネットワークであります。これも先生おっしゃる通りなんです。ご案内のとおりなんです。国土形成計画では広域連携というのは、人口減少、高齢化の、特に地方で生活の環境を維持していくというのに、キーとして使っているんですが、それを第二次国土形成計画ではコンパクト・プラス・ネットワークで表したと。

これは二つ柱がありまして、一つは日本の成長の核を作らなきゃいけないので、スーパー・メガリージョンを打ち出した、と。それからもう一つは、列島の隅々までの豊かさというのを私も大事にしているんですが、それを打ち出す時にコンパクト・プラス・ネットワークというのを主にしたんです。

趣旨は、これも皆さんご案内のとおりなんです。車社会、物販とか病院とか役所とか学校とか、四方八方に分散しましたので、それをもう少し中心部に集めて歩いて暮らせるようにしようということ。それをネットワーク化して、いろんな機能について、質の高い生活ができるようにしようというのが趣旨でありました。スーパー・メガリージョンとコンパクト・プラス・ネットワークの推進、これセットでやっております。

ありがとうございました。

それでは昇先生お願いします。

### <昇委員>

私なんか思い付きで発言したことを、こういう綺麗な形にまとめていただいて、ありがとうございます。事務局からの説明、それから各委員の発言を聞いて、4つ、5つ思い付いたことがありますので、お話ししたいというふうに思いますけれども、まず1点目が、努力目標なんですけれども、2040年をまずセッティングして、だから現在から2040年に飛ぶわけです。2040年から2030年、10年前を振り返って、2040年たぶんこういう社会になるから2030年までにこういう準備をしておいた方が良く、という論理展開になる訳です。その割には、2040年の姿が、難しいと思うんですが、もう少し具体的に書ければもっと良いと思っております。

要するに、文章の形態が2040年の世界も2020年、現在から未来を見通すようなトーンで書かれているような気がします。趣旨はそうではなくて、2040年っていうのはこういう社会になっていると。その社会からすると、2030年まではこういったことをやっておいた方が良くというのが狙いのはずなので、難しいことは重々分かりますし、私も役人をやっていたので分かりま

すが、役人はどうしても現在から未来に向けてというベクトルで文章を書く癖があるんですが、せつかく 2040 年まで 1 回飛んでみて、その 2040 年から見て 2030 年まではこういうことをやっておいた方が良いというトーンに、なるだけ努力目標として頑張っていたら良いというのが 1 つです。

それから同じ努力目標で言いますと、2 点目ですが、先ほど事務局の方から説明があったように、東京、大阪、名古屋、福岡の都市圏の比較はできると思うんです。でも、シンガポール、香港、上海、あるいはロンドン、ニューヨークとの比較っていうのは非常に都市圏としては難しいと思うんです。それは、たぶん綺麗に揃う形は難しいと思うので、例えば現時点では無いでも仕方ないと思うんです。でもこれから進行管理していく中で、是非ですね、そういう問題意識を持って、そういうものを例えば、港湾の取扱高、量と金額とかですね、あるいは飛行場の乗客数とか、そういうものは今でも多分あると思うので。でも、それだけだったらあまり意味がないので、それは内部資料として持っておいて、そういう資料がある程度揃った時に、もちろん日本の三大都市圏、四大都市圏の中での比較もあるんですが、アジアとの比較、あるいは世界との都市圏比較というのが、そういう問題意識を持って国内で名古屋が伸びれば良いという考え方だけでは駄目な時代なんだということで、世界の中で名古屋大都市圏、愛知がどうかという意識を常に持つように頑張るといふ、これも努力目標ということでお話しさせていただきます。

それから、3 点目ですが、2040 年の社会経済の展望、この資料 1、2 ページの③、10 大目標の中の「③すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり」。昨日の内閣の組閣でも、生涯活躍担当大臣を置かれました。これ安倍内閣で謳いだした目標です。日本は人口が減っている、労働力人口が減って、その中であまりいい言葉ではないですが、女老外。女性、高齢者、外国の方になるだけ労働力として入ってもらって、労働力の減を補っていかうということで、それは問題意識としてよくわかるんですが、その時に特に女性活躍社会とかいう言葉が使われて、その時に、例えば女性を例にとりますけれど、女性が輝く社会っていうのは安倍内閣で言っている意味は、労働力として女性が輝く社会なんです。女性が輝く社会っていうのは、もちろん労働力として輝く場合もあるけれども、労働力じゃない形で輝く場合もあります。あるいは行政はそれを支援するべきです。やっぱりそのトーンが、要するにすべての人が生涯にわたって活躍できる社会というのは、もちろん仕事、労働というのは大事な要素ですから、そこで頑張るといふのはもちろん大事な 1 つの要素ですけれども、でも、仕事だけではないわけです。生活者としてどうなのか。要するに、トータルの人生として、どうやって生きていくのかという視点が、この資料 1 を見ても、資料 2 を見ても、資料 3 を見ても弱いと思う。それは、愛知県だけの話ではなくて、国がやっている施策がそうなんです。女性が輝く社会づくりと言っても、労働力として女性が輝く社会づくりをやっているんです。やはり違和感を感じますので、むしろ地域に近い自治体であればこそ、生活人としての女性とか、そういうことも含めたトーンでやっていただくのが良いのかなと思います。

それから最後ですが、私もよく分からないんですけども、日本経済新聞の経済教室で、日本大学の教授がコロナで密がいけないという風潮になっているけれども、やっぱり都市の生産性とか知的産業というのは、やっぱりあえて言えば密でないと駄目なんだと。人が集まって、そこで議論することによって、生産性の高い新しい付加価値というのが生まれるんだと。それは、か

つて、例えば100年前のスペイン風邪とか、あるいは第二次世界大戦の後もちょっと分散したんですけれども、そういうふうに一瞬人がバラけるときはあるんですが、また都市に戻ってきて、よりグレードアップした過密というんですか。私、生活者として、適疎という言葉を使っているんですが、過疎と過密があるとして、コロナの問題は過疎じゃなくて適疎という問題を発見したんじゃないかと。ある程度、分散している方が良くないかと、少なくとも生活者としては、適疎なんだと思うんです。あるいは密ではない疎の価値だと思うんです。だけど、生産の方を考えると、知的労働とかの方を考えると、これもZoomでやっても良いんですが、Zoomでやるよりやっぱり集まってやった方が色々アイデアは交錯し合って、より良いものが出る確率が高いと思うんです。だから問題は、with コロナの時代にコロナに感染しないように色々注意をしながらも、必要に応じて、あえて言うと、密の空間をどうやって作り出すか。安全にどうやって作り出すか。やっぱり最終的にアイデアというのは、人と人が割と狭い空間に、空間でなくても野外でも良いかもしれませんが、集まって議論する中でおそらく生まれるものなので、コロナを経験したからといって、人と人が接触してそこで意見交換して、そこから新しいアイデアが生まれるという、その本質は変わらないのではないかと私は思うんです。だから、適疎の意味はあるんです、生活者としては適疎の方が密よりもたぶん良いと思うんです。だからその価値はあるんですが、片一方で、知的生産ってことを考えると、そう言っているだけでは駄目。特に国内競争、あるいはグローバル競争ということを考えて、名古屋大都市圏、愛知が付加価値の高い知的生産をしようと思うと、コロナの感染を起こさない環境を作りながら、でも身近なところで人と人が頭を寄せ合って物を考えるという、そういうことを戦略的に考えないとおそらく競争の中では生き残れないのではないかと。ここでちょっと確定的には言えないですが、私は、あるいは日本大学の教授はそう思っているだけで、確定的には言えないけどおそらくそうだと思うんです。新しいアイデアとかそういうのは、疎の中では生まれないとは言いませんけど、生まれにくいと思うんです。やっぱり、色々アイデアを出し合う中で、新しいアイデアが出てくる確率が高いと思います。ですからwith コロナの時代の問題は、コロナ、あるいはこれから出てくるかもしれない、新しい感染症に感染しないような環境をいかに作りながら、その中で知的生産性の高い意見交換とか討議する場所を、いかに用意できるかということじゃないかだと思います。ちょっと世の中の風潮は、密は駄目だ、疎だとなっていますけど、全部それが一方通行になっている感がありますが、たぶんそうではないんです。生活としてはそうだと思うんですが、生産ってことを考えると、それだけでは付加価値の高い生産というのはしにくいんじゃないかだと思います。私からは以上です。

### <奥野座長>

はい、どうもありがとうございました。先生がおっしゃるようにフェイス・トゥ・フェイスというのは別に密なところに集まって、顔をいつも突き合わせなければ価値が生まれなくてことじゃないんです。大事なことの一つは、人とのネットワークを持っていること。それから、適切な移動手段があるということだと思います。

東京の大手町というのは本当に企業が集まっていて、何かそこに行くと、どこどこビルの何階に何とかがあるといったって、ビル見つけるのがまず難しい。ビルを見つけたら、どう入ってど

こからどう行けばいいのかわからない。霞が関の役人に、あんた方あそこはどうだって言ったら、自分たちもあそこに行くのは苦勞するとか言っていました。

それでは、クマーラ先生お願いします。

### <クマーラ委員>

資料を全体的に読ませていただいたところで、様々な角度から委員の先生方が話をされたことも十分活かされているかなということで、大変感心した次第であります。私の方では、資料をもう1回ページをめくって確認するというよりも、全体を見てから感じたところで何点か申し上げたいと思います。私は外国人でもあり言葉には若干限界があるので、発言には色々と不快を与えることもあるかもしれませんが。

1つはですね、やっぱり、あらためて考えますと、愛知県あるいは東海地域というふうに見ても比較的同じような意味で取れるかと思いますが、人がこの社会を動かすということを考えると、人の要望あるいは希望とかですね、そういうものには多様性があり、その多様性に応えられる地域かな、というのは非常に以前からも感じておりました、私は「住みやすい」という言葉をよく使いますが、それはここで「暮らし」などの言葉で表していることも意味としては同じことでもあります。

今回、非常に世界的に悪影響を与えたパンデミックが起こったからこそ、我々がこの地域の素晴らしさ、あるいは可能性というものを、あらためて感じさせられたことだと思います。特に、色んなところで、あるいは委員の先生方の発言の中には、女性とかあるいは高齢者、外国人などの言葉が出てきて、彼らがもっと活躍できるような環境づくりの必要性だとか言われますが、本来ならば、こういう会議でそういう言葉が出てこないのがベストなんです。と言うのは、今、課題があるということを感じて、その課題を無くすためにこういうふうに底上げをする意味で書かれているのですが、やはり私から見ても、例えば、男性、女性という性別間なく同じように学んでいるのであれば、能力も同じようにはずですし、もちろん生態的な違いからできる、できないものはまた別にしまして、経済活動あるいは社会活動への参加ということであれば、性差別はあまりあるべきではないと思う次第です。

それから高齢者という言葉も、日本で退職年齢の60代あたりから、非常に元気な時でも「いけないよ」とか言われる時代ですが、勿体ないような気がします。もうちょっと何か活かし方があっても良いのではないかなと思います。

それから外国人という言葉だって同じであり、外国人ということでの生活あるいは社会貢献に大きな壁があるというのは、残念ながら現状であります。ですが、社会は大きく変わっていく中では、そういう感じている課題を改善していくということになります。中でも、私は特に人材という意味で少し申し上げたいのは、今回のパンデミックが起こったからこそ我々が本来ならば感じていたものの、実行に移せなかった様々な方法があったかなということで、それはICTを生活、あるいは仕事、あるいは学び、あるいは交流など、様々なことに活かすことができるというふうにみんなが感じて実行している訳です。そうすると、例えば必ず従来型の対面的に集まって話をする必要は十二分にありますが、それに加えて、このパンデミックが我々に教えてくれたことをどう活かすのかということ、いわゆるハイブリッド型のやり方を様々な活動に活か

すことの方が、より社会の活性化につながるのではないかと思います。特にテレワークとかでは、必ずしも住む場所が今と違うような形でも良いと考えるようになってきたし、それは国内であっても大都市、周辺都市だけではなく、外国にいながらでも仕事の一部はお願いできることになるのではとみられています。

それからもう一つ、教育の場合でも、我々が過去の10年間ぐらい、グローバル化という言葉をととても大事なキーワードとして挙げて、色んな事を考えてきたんですが、学びの場合には、従来型の活動を実施できなくなってきたわけです。しかし、ICTを活かすことによって補える一部分があるのではないかなということ。

もう一つはやっぱり私から見ると、愛知県の可能性あるいは愛知県の魅力というのは海外にもう少し発信して欲しいなということでもあります。そのためにも従来型の訪問型、あるいは対面的な活動に加えて、テレワークとかテレストアディー、そういうものを活かすことによって、より効率よく活動できるかなと思います。例えば愛知県の方で様々な大会を行うような時でも、従来、宣伝活動に訪問をしたりすることに、今までのこの数か月間の学びを活かすことによって、活動の効率化を図れることになるのかなと思います。

そういう意味では、モノづくりの愛知と従来考えていた部分も多くあると思うのですが、モノづくりだって今から大きく変わるといふことに関しても、少し危機感を感じ、色んな政策の中にその対策を組み入れて良いのではないかと思います。例えば自動車産業など、従来型からEV化ということで、世界で途上国にまで自動車を組立産業として行うという形での動きも考えると、従来型の産業構造だけでは、愛知県、あるいは日本と言ってもそうかもしれませんが、経済活性化が可能なかどうかは気になる。だからこそ逆に海外とのネットワークもより強化することによって、別な意味での協働ということ、社会活性化はできるのではないかと思います。

何しろ愛知県というのは、今回、コロナが発生したからこそ、多くの人々が、人口密度が過剰になっていないところの良さ、もちろんすべての施設などは近いところにあるわけではないので移動に関しての様々な課題がないことはないけれど、でもそれほど大きな課題ではないかなと私は感じております。外国の人とよく話をすることで言えば、東京とか大阪とか大都会にいる外国人よりも、やっぱり愛知県あるいは東海三県に住む外国人の方が、やはりこの地域はとても良いねという話をよく伺うわけですので、そのあたりをこれから色んな政策の方に反映させて、多くの人に選ばれる愛知になるようなことも期待はしたいと思います。とりあえず、以上です。

### <奥野座長>

はい、ありがとうございました。

ちょっと時間があるようなので、私の方からも。もう皆さんのご発言で大体尽きていると思いますが、内容が非常に結構だと思います。担当課長さんが仰いましたように、これからの運用、KPI等々に活かしていただければと思います。

細かい点で最初一つ中京新幹線を入れたというのが非常に良いと思いますね。中部地整の会議でも森川先生が今年ですね、内田先生も一緒にやった分でも、中部地整のビジョンにそれを入れてですね、国の方へ持って行っていきます。説明しています。基本構想には、基本計画には入っ

ているので、問題ないので、どんどん主張されることが大事だというふうに思います。今、国の方で第三次の国土形成計画を作る準備を始めていまして、国土審の小委員会、計画推進部会があって、その下にまた小委員会があるのですが、増田寛也さんが中心になってやっています。日本郵政で大変お忙しいようですが、非常に熱心にやっています。今そこでやっています。それで、増田さんと来週再来週だったか、雑誌の対談をすることになっておりますが、愛知県の主張というのは、こういう国の政策にとって非常に大事なんですね。だから、インパクトのある格好で主張しておいていただくと良いと思います。大阪はそういう主張は非常に上手なんです。愛知県も主張されたいんじゃないかというふうに思います。

それから2番目に、昇先生が仰っておりました。まさにそうなんです、その通りだと思います。重ねて言うようなのですが、やはり愛知県はやはり国際的視点は欠如していると思う。私は、課長さんがお出でになった時にかなりそういうことを議論して、重ねてになって恐縮けれども、一言言っておきますと、他の地域と比べてはいけませんが、私、北海道の計画の会長をやっていますね。そこで絶えず現地で言っていることは、国際的視点が欠如している。あそこは経済界も欠如しているんです。それから役所の方も国際的視点が無いんですね。観光客が来てくれるといいなぐらいなもんです。

それで愛知県はどうかというと、企業の方は日本も国内もないみたいな感じになっているのですが、役所の方は、やっぱりそういう国際的な視点というのは、本当に欠けていると思う。それを思うのはスタートアップでも、東京が世界に遅れをとっていて、日本がどんどん離されている状況なのに、東京のやっていることを見て鉛筆舐めていては、世界に冠たる愛知という視点にはならないと思います。だから、それをどうするのか。

それから、これも昇先生が仰いましたが、これは愛知県だけでなく、名古屋市もそうなんです。三男坊と言って、これは幹部の方にはしみついているようで、東京と大阪を眺めて鉛筆舐めていて、さりとて政令市の中で遅れをとるわけにいかない。平均より良ければ、もう二重丸をつけている。それで世界に冠たる名古屋というのは、およそ茶番でしかないというふうに私思います。

それから、KPIなんかでGDPの全国シェアをKPIにする。これも、この会議でもご発言、先生からあったのかな。平成の初期には、世界のGDPの日本は16、17%くらいあったと思います。平成の終わりには、多分6%を切るかどうか。世界の中に存在感が弱くなっているのに、日本の中でのGDPシェアが0.1上がって、世界に冠たるみたいなこと言ったのでは、これ何を言っているのか分からない、正直言って。スーパー・メガリージョンでは世界のメガリージョンと競争しようとしているので、シリコンバレーとかボスウォッシュとか、中国だと上海とか深圳、それからヨーロッパにもあります。そのときに日本でのGDPのシェアを、GDPの総額が増えているから良いのではないかという話よりは、ましだと思います。いかにも国際的視点が、あるいは国がやっていることとすり合わせても無いように思います。だから、その辺のところは、運用で是非とも考えていただきたいと思います。私の感じたことは以上であります。追加してご発言がありましたら、どうぞお願いします。

### <内田委員>

追加ですけれども、産業経済分科会での発言をちょっと付け加えさせていただきますと、まずロボット産業に関する書き込みとして、自動車産業と航空宇宙産業の後に来ているんですが、やはり今回の with コロナでかなり無人化、省力化、自動化への投資で、ロボット産業への注目度はかなり高まるのではないかということで、この辺りもかなり拡充していただいています。

それから今回、事業承継についても書き込んでいただいているのですが、これも新しい政権に中小企業の再編についてもかなり積極的にやるということですので、その辺り、製造業も含めて当地域の円滑な事業承継に関する記載ということも拡充していただいております。

あと進捗管理指標の中では、先ほど昇先生から適疎という表現もありましたが、通勤時間とか、マイカー通勤比率だとかそういったところ、危機管理上、有効に機能するようなそういった指標も、将来的には検討しても良いのではないかというご指摘もありました。以上です。

### <奥野座長>

ありがとうございました。

県の方から、先生方の発言に対して、ご感想或いは全体的なリプライ、個別でなくても結構ですから、全体的なリプライがあればお願いします。

### <事務局（浅田担当課長）>

各先生からいろいろご意見いただき、本当にありがとうございました。大変示唆に富んだご意見をいただきました。特に指標関係でいくつかご意見いただきまして、こういったご意見については、私どもとして関係局としっかり調整を図りながら、検討してまいりたいと思います。

あと推進に当たってもいろいろとご意見をいただきましたので、こうしたご意見につきましても、しっかり受け止めまして、先ほども申し上げましたが、今後は、ビジョンの年次レポート等にて様々な地域分析を行っていくことを考えておりますので、こうした分析に当たっての参考にさせていただきたいと思っています。

### <事務局（富安課長）>

企画課長の富安です。本当にありがとうございました。

先ほど頂戴いたしましたご意見の中で、昇先生それから奥野座長からいただきました国際的な比較をしっかりとしていかなければいけないというご指摘はその通りだと思います。非常に重く受け止めております。今、担当課長からも答弁させていただきましたが、進行管理の中で、どういう形で総合的に比較ができるかという研究も含めて、やっていくんだということを、そういう管理をしていくということを、しっかり書いていきたいと思っておりますので、またやり方はご相談させていただきながら進めたいと思います。

それから、森川先生からいただきました、ジブリの世界観を地域づくり全体にというお話を頂戴しました。この点につきましては、随所にそういった里山環境、海の世界、干潟の世界、愛知ならではの伝統というのを保存していくことはできる限り書き込んでいるのですが、なかなかジブリの世界観を体現するという書き方は、表現では難しいところがありまして、その点につい

ての精神については共有させていただいているつもりでおりますので、今後、打ち出すときに、そういう気持ちなんだということを伝えていくかについては工夫させていただきます。

#### <森川委員>

ジブリという名前が使えないということは重々承知していますが、もともとは愛・地球博ですよ。愛・地球博があって、ジブリがあって、それらのレガシーを地域づくりに十分活かしているんだということが、県民に伝わるよう。もちろんいろんなところに入っているのは承知していますけれども、その時に愛・地球博、ジブリ、その先のそれを生かした地域づくりの方向性を見せていただければいいのかなと。その時にジブリ的に地域づくりをという、またちょっと怒られると思いますので、何かその流れがわかるような形にさせていただければいいのではないかと思います。

#### <奥野座長>

はい、ありがとうございました。他、ご発言いかがでしょうか。どうぞ昇先生。

#### <昇委員>

今のジブリの話聞いてなるほどと思ったんですけど、東京圏が代表するものとしてディズニーランドがあって、大阪圏、京阪神圏が代表するものとして、ユニバーサルスタジオがあって、今度、名古屋圏にジブリパークができるというのは、いろんなことに使えるなと思いました。要するに、あそこの舞台は、密じゃない適疎な世界で、まさに愛知県の魅力を体現している。

これは課長さんにお話したんですが、介護の映画を撮る女性の監督がいて、最初東京でロケしようと思ったけど、東京だとみみちくなるんです。車椅子でできないんで、トイレも廊下も。大阪でやろうと思っててもできないんです。愛知だとできたんです。犬山か安城だったと思いますが、要するに、ごく普通の中流家庭で、車椅子がちゃんと動ける家というのは、東京大阪には無いんです。愛知にはあるんです。だから愛知で映画を撮って、介護の問題をみみちくない形で撮れて良かったと、東京大阪は駄目だな、愛知でないと駄目だなと。

こういうなかなか知られていないんですけど、要するに、愛知の魅力って先ほど皆さんが言っていたのは、そういうことだと思うんです。過密、無茶苦茶な過密ではなくて、農村地帯もあって、もちろん名古屋の200万都市もあって、両方があるというのが愛知の魅力で、それを割と目に見える形で示しているのが、ジブリの世界かと思います。

そういう意味では、私、これから話す時に使わせていただこうと思いますが、要するに東京大阪と違うタイプの魅力を持った名古屋、愛知という意味で、地域づくりの目指す方向として、ジブリはものすごく分かりやすいと思います。ジブリという言葉は使えないかもしれませんが、愛・地球博は使って良いんですけども。

それは国内だけの話じゃなくて、アジア、世界に訴えるときも、名古屋圏にディズニーランドを持ってきたって仕方がないんですよ。これも東京にあるから、そういう意味で、ちょっと言葉はあれなんですけど、ジブリ的な世界感というのを、愛知は目指すんだと。それはちょっと東京とか大阪と違うタイプの幸せ感とか生活とか、そういうものがある空間を愛知は目指すんだとい

う意味合いで、ジブリという言葉は使えないかもしれないけれども、その3大都市圏の比較の中ではそういう形で、愛知の優位性を示して、それを日本国内だけじゃなくて、アジア、世界に訴えていくというのが、愛知の戦略の一つかなと思いますので、付け加えさせていただきました。

#### <奥野座長>

ありがとうございました。後藤先生どうぞ。

#### <後藤委員>

私の担当のところというわけではないのですが、今日議論した中で、密か疎とか、高密、低密というのをどう考えるかっていうのが、すごく議論にあって大事なことだと思います。そう思ってこれを見ますと、例えば2040年頃の社会経済の展望の⑨の都市の低密度化、高齢インフラの増加というタイトルですが、ここでの低密度化というのは、必ずしも良い方向性ではなくて、ちょっと空き家とか空き地が増加するとなっています。一方で、別の箇所で、適疎とか、高密を低密にしていく方向性が良いと言っているところと、このタイトルの付け方がちょっと矛盾してしまうと思います。

もう一度全体的に今日の議論を踏まえていただいて、高密とか低密とか、密と疎ということはどう捉えていくか、この書き方が残された低密の都市部分を活用するとか、そういうふうを書いてあれば、非常に意味がわかると思います。ここで書いてあるのはマイナスのこととして、都市の低密度化というのが起こっているみたいに書いてあると思うので、その辺りの整合性が、全体読んだときに少し気になったところで、今日のご議論を踏まえてさらに思いましたので、その辺りはもう一度検討していただくとよろしいかなと思います。

#### <奥野座長>

はい。ありがとうございました。

その辺もう1回ブラッシュアップしていただいて、微調整をやっていただけるといいかなと思います。他、いかがでしょうか。はい。クマーラ先生どうぞ。

#### <クマーラ委員>

今回こういうふうに愛知県のこれからの20年間の姿について考えさせていただいた中では、私は、常に発言している言葉の一つには、やっぱり愛知県にはもっと魅力があり、その魅力を多くの人々に伝えて欲しいなということではあるのですが、いろいろ考えて、これは私的なことになるんですけども、大学を少し早く辞めて、ベースを自分の国に移して、そこから日本の魅力、それから愛知県の魅力を発信するようなことにしたいなと思っています。

そのため、今年度末で日本から離れることを決めたんですが、向こうの方で愛知県の大ファンとして、スリランカだけではなく、周辺諸国ともネットワークを組みながら、何かできるといいかなと思います。向こうから、例えば日本ということになりますと、多くの人々が、東京、京都、広島とかそういうふうな観光地をイメージしたり、あるいはいろんなテーマパークをイメージ

したりするのですがそうではなく、やはり国にとってもっと役に立つこういう地域があるという情報発信がスリランカをベースにしてこれから行っていきたいと思います。こちらを訪問をさせていただくことも多々あるかと思うのですが、その時には委員の先生方を含め、よろしくお願いしたいと思います。

#### <奥野座長>

お帰りになるんですね。ありがとうございました。他はいかがでしょう。

先ほど課長からお話があった、国際的な視点を入れたような運営、K P I を考えて、これから検討していくとおっしゃられたこと、これは愛知県の他の自治体だけではなくて、他の圏域、日本にもかなり大きな影響を与えていくかというふうに思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

それではそろそろ時間になりましたので、議事は以上にさせていただいて、事務局よろしく申し上げます。

#### **あいさつ**

##### <野村政策企画局長>

本日は長時間にわたり、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

また、この懇談会の座長を務めていただきました奥野先生を始め、各分科会の座長を務めていただきました後藤先生、内田先生、森川先生、そして、昇先生、クマール先生には、大変お忙しい中、昨年9月の第1回会議以来、約1年にわたりまして、熱心にご議論いただいたこと、改めて厚くお礼申し上げます。

本日もまた、大変有意義なご意見、ご示唆をいただいたと感じております。本日いただいたご意見やご示唆を含め、ビジョンの取りまとめに向けて、しっかりと検討していきたいと思っておりますし、またこのビジョンについては、計画を作って終わりというわけではございません。もちろん、この10にわたる愛知県のこれからの示す基礎的で重要な計画なものですから、ここについてご議論いただいたことはもちろん価値があることでございますが、結局そこに命を込めていくのは、この後どういう形で進行して、政策を実施していくかが重要だと思っています。

そのため、年次レポートも作りますし、毎年どういうことをすべきか、しっかり見直していくことも含めまして、我々として詰めていきたいと思っております。そういった面も含め、先生の皆様方には、今後も温かいご支援、ご指導いただければありがたいと思っております。改めてお礼を申しあげまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。

以上